

1000年つづく毛原の経済のしくみ

～「経済優先」を唱えなくても経済が成り立つ暮らし～

「毛原にとって価値ある仕事＝お金がもらえる仕事」とは限らない。

「毛原村民+毛原とともに暮らしを考えてくれている村外村民」をゆるやかな一つの家族とみます。

家族（毛原）を持続させていくためには、様々な仕事を楽しくこなしていく必要があります。

掃除、洗濯、庭の手入れ、障子の張り替え、子育て、近所のこと、祭りのこと、などなど・・

お金が得られる仕事はごく一部。

本当の家族は、お金をいったん集めて、自然に分配している。

毛原もちょっとした家族のようにスムーズにお金がまわるように、少しの工夫（しくみ）を用意します。

※これまでの仕事のお金には手をつけない

良いかげんに分配するために毛原通貨「けーら」を導入します。
(この「けーら」は、広報、宣伝、販促にも使える優れものです)

月収3万けーらの仕事を
必要なだけつくります。 →



毛原の働くルール

- 期待されている成果に向けて仕事をする。
- 給与分と、奉仕（自分、周りの人、地域、自然環境、未来の子どもたちのため）の気持ちの分を足して働く。
- 就業時間は自分で自由に決める、仕事の掛け持ちもOK。
- 十分に働いている私がいれば、休憩自由、昼寝、家の用事、おしゃべり、棚田や花や鳥などに見とれているのもOK。

参加条件

毛原村民+毛原とともに暮らしを考えてくれている村外村民

できる仕事を選択

けーら（独自通貨）の特徴

- これまでの通貨（円）とうまく共生できる。
- 無給ボランティアだった作業が有給の仕事になっていく。
- 毛原の事情に合わせた就業規則を設けることができる。
- 収入を気にせずに必要な仕事をすることができる。（常に収支が合う）
- 地域内に利益が還元される。

毎月の収入

どの仕事も、毛原にとって価値は同じだが、
収入（お金を得ること）には大きな違いが出る。

宣伝販促

販促費を計上できれば、
100けーら紙幣を発行して、
チラシといっしょに宣伝物として使う。
(チラシより断然効果大)

↓

けーら紙幣は毛原でしか使えないで、もらった人が毛原を訪れる可能性が高くなる。

↓

けーら紙幣が使えるコンテンツ（集落内ウォーキング、棚田農業体験、など）を楽しんでもらう。
(例えば、けーらは販売額の1割まで使える、というような条件を整える)

↓

【使用例】

棚田農業体験（1000円）を楽しむ。

チラシといっしょにもらった100けーらと900円を農家に支払う。（体験客は100円得する）

農家は100けーらを毛原事務局で90円に換金する。（農家は1%の値引きをしたことになる）

※農家にとっては1%の値引きだが客には10%得してもらえる。（1%の負担で効果のある販促ができる）

※毛原事務局の運営維持のために換金時に手数料として10%を差し引く。

給与計算

月給は、加工所でつくった特産品や毛原ガイドツアー等で得た毎月の毛原全体の利益を、
行われた仕事の数で割って計算する。
(または、年4回（季節に一度）、円に換金)
3万けーら=千円?~3万円~15万円?

お金にならない仕事が、お金になる仕事を強くする
毛原の魅力を掘り起こす仕事や磨く仕事が増え、そして
楽しく仕事をしている人が増えることで、付加価値の高い商品が生まれ、来訪者が増え、移住者が増えていく。

「結果は後から付いてくる」楽しみのしくみ化
期待する収入が約束されるのを待たずに仕事をすることができれば、まちづくりは確実に前に進み、期待する収入に早く到達する。

楽しく仕事をしながら進んで、収入が十分になつたら、もっとおだやかに、のんびりと、
日常の些細なことに感動しながら、毛原の暮らしをずっと続けていきます。
「1000年つづく毛原」は願うものではなく、歩むものです。